

# 産業消防常任委員会会議記録

日 時 令和3年10月8日(金曜日)

午前10時 0分 開議

場 所 水戸市議会 第4委員会室

午前11時 3分 散会

付託事件

(1) 所管事務調査

1 本日の会議に付した事件

(1) 報告事項

① 令和3年度歩行者通行量調査結果について

(商工課)

② 第47回水戸の菊花展について

(観光課)

(2) その他

2 出席委員(7名)

委員長	飯田正美君	副委員長	後藤通子君
委員	小泉康二君	委員	渡辺政明君
委員	内藤丈男君	委員	五十嵐博君
委員	安藏栄君		

3 欠席委員(なし)

4 委員外議員出席者(1名)

議員 田中真己君

5 説明のため出席した者の職、氏名

産業経済部長	鈴木吉昭君	産業経済部参事	川崎幹男君
産業経済部参事兼商工課長	長谷川昌人君	産業経済部技監兼農政課長	深澤和広君
観光課長	小林一仁君	農業環境整備課長	三村隆君
農産振興課長	後藤俊之君	公設地方卸売市場長	宮田正一君
消防局長	小泉直紀君	消防次長	大内康弘君
消防局参事	箕輪重美君	消防局参事兼火災予防課長	石田宏一君
北消防署長	青木剛君	南消防署長	勝村俊則君
消防総務課長	猿田純夫君	消防救助課長	大信成人君

救急課長 栗原政人君

農業委員会  
事務局 横山英雄君

農業委員会  
事務局次長 吉川正浩君

6 事務局職員出席者

書記 大内しおり君

書記 島田祐輔君

午前10時 0分 開議

○飯田委員長 おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから産業消防委員会を開会いたします。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、報告事項の説明を行います。

令和3年度歩行者通行量調査結果について、執行部より説明願います。

長谷川参事兼商工課長。

○長谷川産業経済部参事兼商工課長 それでは、令和3年度歩行者通行量調査結果について、商工課提出の資料により御報告いたします。

1の調査概要でございます。

本調査につきましては、水戸商工会議所と水戸市が実施主体となりまして、本年7月11日日曜日と12日月曜日の2日間で実施いたしました。調査時間につきましては、午前10時から午後7時まででありまして、水戸駅南口から大工町交差点までの12地点での調査でございます。自転車を含む歩行者を調査対象といたしまして、調査地点ごとに方向別、男女別の歩行者を計測したものでございます。

(2)の調査日の気象状況につきましては、11日は晴れ時々大雨一時曇り、最高気温は29度、湿度は88%と、小雨の降りやすい天候で、午後には雷を伴う非常に激しい雨が2時間ほど続きました。12日は晴れ後曇り一時雷を伴う雨で、最高気温は30.7度、湿度は83%と、小雨の降りやすい天候で、前日同様午後に雷を伴う激しい雨が降りました。

次に、2の調査結果概要でございます。

5年間の通行量の推移を掲載しておりますので、下段の表もあわせて御覧願います。今年度の通行量につきましては、太枠囲みで表示しております。日曜日の総通行量は3万8,523人で、前年比で0.6%の減でございました。月曜日の総通行量は3万8,637人で、前年比で1.1%の増でございました。

2日間合計の総通行量につきましては、7万7,160人で、前年比で0.2%の増という結果となっております。調査を行った日の水戸市は、茨城県による感染拡大市町村の指定が5月27日に解除され、茨城版コロナNextの対策ステージがstage2へと緩和されたものの、デルタ株等の感染拡大の兆しがテレビニュースなどで取り上げられており、市民の間では感染拡大防止の観点から、昨年引き続き外出自粛ムードが継続していたことが、前年度と同程度の結果になったものと考えております。

裏面の2ページを御覧願います。

(2)地点別の通行量といたしまして、日曜日、月曜日の合計をそれぞれ表にまとめたものでございます。地点別の動向を見ますと、⑦マイムビル前2Fで、日曜日に1,524人、93.4%の増、月曜日に1,013人、54.2%の増となっております。マイムビルは昨年11月に低層階の商業フロアにコーヒESHOPをはじめ、調剤薬局、クリニック等がオープンしたほか、中高層階のオフィスフロアへの事業所誘致も進んでおり、その影響により通行量の増加につながったものと考えております。

また、①水戸駅南口2Fでは、日曜日は1,244人、6.2%の増となっております。これは、当日がエクセルみなみ10周年アニバーサリーフェアの最終日だったことや、水戸OPAのバーゲン期間であったこ

となどの影響によるものと考えております。

全体を見ますと、日曜日の水戸駅付近以外の地点で、大幅に減少している地点が複数あることは、コロナ禍により市民の外出自粛ムードが継続していたことや、当日に雷を伴う非常に激しい雨が降り続いたことが影響していると考えられます。

詳細につきましては、報告書を添付しておりますので、後ほど御参照いただきますようお願いいたします。

歩行者通行量につきましては、中心市街地活性化基本計画における目標指標の一つに掲げているところでございますので、地元商店街はもちろんのこと、商工会議所等の関係機関とも連携を図りながら、コロナ禍における取組を検討し、実施していくことで、人の流れを取り戻し、まちなか全体へと波及させていけるよう努めてまいります。

この調査結果につきましては、市のホームページ、水戸商工会議所の会報、関係団体への報告書の配布などにより、公表してまいります。

説明につきましては、以上でございます。

**○飯田委員長** 内容について、何か御質問等がございましたら発言を願います。

渡辺委員。

**○渡辺委員** 通行量調査は毎年行われていると、去年、今年とコロナの影響があったということで数字は大分下がっているということかなと思います。

私は質問じゃなくて、意見を述べておきます。ということが、今いみじくも課長が話したように、中心市街地の活性化って、平成27年でしたっけ、中心市街地活性化基本計画に基づいて、この通行量調査もその前からやっていたのは確かあったと思うんですけども、目標の数値、交流人口をこのレベルまでとか、例えば6万人とか、そういう数値の目標を掲げて、やっぱり取り組んできているのではないのかなと思っていますので、もしそういうことであるならば、そろそろこれの生かし方を考えてほしいんです。商工会議所とか、あと商連さんに配るとか、水戸市のホームページに載せてあるとか、そういうことだけじゃなくて、これを生かして計画を立てているとか、そういうことを実際の当事者である商工会議所さんとか、商連さんとかに求めるべきではないのかなと思うんです。これね、子どもが教科書もらってるのと一緒なんですよ。教科書に載っていますよと。こういう大事な歴史のことが載っていますよということで、それを教えなければ、ただ単に載せているというだけなんです。これも、全く一緒なんですよ。商工会議所に言いました、ネットに載せましたって言うだけならば、これ誰でもできるよね。これをどう受け止めて生かすかということが問題で、十数年以上やっているはずですよ、この調査は。私はこれをもっと生かすべきではないのかなと。この数字は何を物語っているのかを、やはりたまには商工会議所の方とか、例えばまちづくり協議会とかって中心市街地の活性化を目標にいろいろやっていますが、そういう方にしっかり受け止めてもらって、これについてどういう考えやまた構想をお持ちなのか、持っていただけるのか、そういうふうにさせていただくことが、これを生かすということにつながるのではないのかなと思います。

それで、最後に一つ、これは要望なんですけれども、どちらかというと今までの調査とかそういうものが、売る側、いわゆる仕掛け側だけに集中しているんですよ。本来、活性化を目的とするならば、この水戸の通行量の数字でも分かるように、例えば水戸駅を使って通勤している方とか、また、この周辺の定住人口は

1万4,000人あるわけですが、そういう人たちが中心市街地に対してどのような考えを持っているのか、そういう意向調査も通行量調査と並行して実施すべきであって、そういう資料がないところでの計画とか企画とか構想というのは、不完全なものではないのかなというふうに思っております。10年たつと消費者の購買心理は大きく変わっていますよ。通勤、通学の人々の通行量は変わらないですけれども、考え方は全然違っているはずですよ。そして、例えば半径30キロメートル圏内が商圈だつて言うような店はないと思うんですよ。京成百貨店さんだつて、そこまでは思っていないような気がします。ですから、一番大事な地元の身近な消費者が、商店街とか個店に対してどういう意向を持っているのか、そういう調査を今後していくことが大切ではないのかなということをお私に意見として述べておきます。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

小泉委員。

○小泉委員 数点、質問させていただきたいと思えます。

まず、この調査は、商工会議所の名前が報告書の頭に来ているんですけども、商工会議所が主体になるんですか、それとも全く横並びでという形になるんですか。

○飯田委員長 長谷川商工課長。

[発言する者あり]

○長谷川産業経済部参事兼商工課長 基本的には商工会議所が主体となっております。あわせて、水戸市も協力して行っているというところでございます。

○飯田委員長 小泉委員。

○小泉委員 そうしますと、実施に当たっての費用負担というか、幾らかかって、そのうちの割合がどんなものなのかというのをちょっと教えていただいてもよろしいですか。

○飯田委員長 長谷川商工課長。

○長谷川産業経済部参事兼商工課長 通行量調査の経費といたしましては、予算が150万円で、調査員の人件費等が主なものになっております。そこに水戸市からの補助金といたしまして、75万円を補助しているというところでございます。

○飯田委員長 小泉委員。

○小泉委員 その中で、それらを行って、365日あるうちのこの2日間を選んで調査をしていただいて、報告書の結果報告のところでも1ページの一番上でありますけれども、実際、基礎資料としてこれがどの程度反映されているんですか。先ほど渡辺委員がおっしゃったのが、まさに本当にそのとおりでないと、その数値目標を観光交流人口とか、定住人口なのかでいろいろやっていくという話の中で、交流人口の中でやっていく上で、何がその目標値で、そこに向かって何をやっていくのかというところが、特にちょっと感じられないようなところもあるんです。実際、このデータをエビデンスとしてどういったものに反映されているかというのを、もう一度お伺いしてよろしいですか。

○飯田委員長 長谷川商工課長。

○長谷川産業経済部参事兼商工課長 歩行者通行量調査の結果につきましては、現在、様々な施策を進めている中心市街地活性化基本計画の目標指標の一つにも掲げておりまして、そこで目標を設定した形で、こう

いった結果に基づきながら各種施策の推進を行っていくというところです。

○飯田委員長 小泉委員。

○小泉委員 やはり、施策をつくっていくのにも、エビデンス、そういったデータというのは極めて重要なんだろうというふうに思います。例年ずっと続けてきているということで、過去との比較もできるんだと思うんですけども、僕は多分10年ぐらい前の産業水道委員会でも言ったんですけども、やっぱり2日間だけの調査で、この水戸市全体の365日の流れがどの程度分かっていくのかというのがありますし、あとは季節柄のものもあったり、観光なのか定住の人なのか、そういったところをもう少し細分化して調査を行わないと。例えばコンビニさんなんかでも、レジで我々が支払いをしたとき、おおむねの年齢層をボタンで押して、それが正しい、正しくないじゃなくて、おおむねどういった年代の方が、男性なのか女性なのか、またそういった方が何時頃にどういった商品を手をしているのかというのを情報として得ているという話もお伺いしています。どういった情報を取っていくのか、またその精度というのもやっぱり上げていかないと、先ほどお話しされましたように、その中心市街地活性化の計画にもきちんと反映されるデータなのであれば、なおのこと、僕はちょっとこの2日間だけじゃ足りないんじゃないかなというふうに思います。

また、その程度なんだったら、正直やる理由もなんか、どの程度必要性が出てくるのかなというのも思ったりする。きちんと目的を持って、この御時世ですので、いろんな形での調査をして、数字を得て、それで施策展開に反映させていくというような形をぜひ期待したいなというふうに思います。それに関してちょっと意見です。

もう一つの意見が、やっぱり県庁所在地の中で、今、水戸市の地価下落率が一番高いと、関東圏内でも下落が続いているのは水戸市だけというデータが、今年3月の確か国交省のデータでもあったと思うんですが、やっぱりそういったことにきちんと施策を打つのも、こういった今の現況をしっかりと把握して、さっきの話に戻りますけれども、きちんとした、的を射た施策展開をしていくことによって、人の流出にしてもそうですし、交流人口の増加に関しても目標数値に向かってやっていけるんだと思うので、そういったことを大いにちょっと期待をして意見とさせていただきたいと思います。

以上です。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

五十嵐委員。

○五十嵐委員 歩行者通行量調査につきましては、資料1ページのところの平成29年から見ても、コロナの影響によって大きく変わってきているという数字が出ていまして、参考にはなっていると思いますけれども、水戸市としては、まちのにぎわいということの指標の一つとして、この通行量調査をしているんですけども、それ以外に何か調査をしているものというのはあるんでしょうか。もしあれば、教えていただければと思います。

○飯田委員長 長谷川商工課長。

○長谷川産業経済部参事兼商工課長 ただいまの御質問でございますが、歩行者通行量調査以外にも中心市街地におきまして、空き店舗率の調査をしております。さらには、当然、先ほど渡辺委員からもあったように定住人口、そこに住んでいる方の調査、そういったことも行っております。

[発言する者あり]

○飯田委員長 ほかにございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○飯田委員長 ないようですので、次に、第47回水戸の菊花展について、執行部より説明願います。

小林観光課長。

○小林観光課長 それでは、観光課提出の資料に基づきまして、第47回水戸の菊花展について、御説明を申し上げます。

新型コロナウイルスの状況を踏まえまして、現時点におきましては開催が可能ということ为前提に、感染症対策をしっかりと講じた上で開催してまいります。今年度の菊花展につきましては、秋の風物詩の一つでもあります菊花展を開催することで、市民はもとより、来場者の皆様に癒やしと活力を感じていただくほか、菊花愛好者の方々による取組をPRしまして、愛好会等の育成活動の促進を図ることを目的に開催してまいります。

期間につきましては、10月28日木曜日から11月15日月曜日までの19日間を予定しておりまして、午前9時から午後3時30分まででございます。

5の会場でございますが、今回の菊花展につきましては、愛好会連合会の皆様とも十分協議をいたしまして、前回は期間を短くして、市役所の本庁舎で開催しましたが、これを変更し、初めて水戸市の植物公園で開催いたします。

次に、内容でございますが、市内菊花愛好者による色とりどりの菊を約300点展示いたします。また、感染予防対策のため、昨年度は実施することができませんでした市民参加コーナーや菊花相談コーナーの設置、審査会を開催するほか、菊のワークショップや生け花の実演、展示なども行ってまいります。

次に、7の広報につきましては、ポスター、チラシの配布、「広報みと」やホームページを活用したPRに加えまして、市内の介護保険施設や老人ホームといった福祉関連施設に対しましても、案内メールのほうを送付するなど、広く周知を図ってまいります。

恐れ入りますが、裏面を御覧いただきたいと思います。

次に、今回の主な変更点、見どころ等でございます。

今回の菊花展につきましては、4月にリニューアルオープンした植物公園で開催しますことから、菊花展を通じて入園者の増加を図るとともに、来園者に対しましては菊の出展者や愛好会等の取組をPRするなど、相乗効果を図るための取組としてまいります。

続いて、②の市内の学校と連携したおもてなしの取組といたしまして、前回、参加いただいた水戸啓明高校華道部に、期間中の毎週木曜日、菊を使った生け花を実演していただきまして、その作品を植物公園の料金所のほうに展示してまいりたいと考えております。

また、水戸一中の生徒の皆さんが育て上げた菊の展示とあわせ、送迎看板を設置してまいりたいと考えております。

そして、④になりますが、11月6日と7日の2日間におきましては、若い世代にも菊への興味や関心を持っていただけるよう、小さなお子様も手軽にフラワーアレンジメントが体験できるワークショップを初開

催してまいります。

おしまいに感染予防対策としましては、場内の手指消毒液の設置はもちろんのこと、入り口と出口を別々に設け、一方通行による入退場を誘導するほか、いばらきアマビエちゃんへの登録呼びかけ、関係者のマスク着用の徹底、さらにはワークショップの参加者にも検温を実施するなど、できる限りの予防対策を講じてまいります。

引き続き感染状況を注視しつつ、安全で安心な祭り、イベントの開催、運営を目指してまいりますのでよろしく願いいたします。

なお、お手元には今回の菊花展のチラシを添付してございますので、後ほど御参照いただければと思います。

説明につきましては、以上でございます。

○**飯田委員長** 内容について、何か御質問等ございましたら発言をお願いします。

小泉委員。

○**小泉委員** 数点、質問をさせていただきたいと思います。

コロナ対策をして開催するということは私も大いに賛成で、やはり緊急事態宣言が今解除されているわけですから、多くの皆様方にお越しをいただきたいと思ひますし、また菊を栽培されている方々にとりましても大事なイベントでございますので、大いに期待をしたいと思っております。

そこでお伺いしますが、2ページが一番下段の主な感染予防対策として5つのことが設けられていて、そのほかにも幾つも注意点というのはあると思うんですけども、まず1日当たりのスタッフの延べ人数等をお伺いできればと思います。

○**飯田委員長** 小林観光課長。

○**小林観光課長** ただいまの小泉委員からの1日のスタッフの人員配置状況に関する御質問でございますが、平日の場合と休日の場合と区分を設けておまして、どちらも基本的には菊花愛好会の方が2名から3名、加えまして私ども市の職員が2名から3名、常時張りつく予定でございます。

また、土日の取組、ワークショップ等を予定しておりますが、啓明高校の華道部の皆さんにも運営スタッフとして実演のほかに関わっていただいたりということで、土日ではトータル10名程度が張りつく予定を立てております。

○**飯田委員長** 小泉委員。

○**小泉委員** ありがとうございます。

それにも後で関連するんですけども、例年の実績も踏まえた上で今回の集客の見込みというところ、あと目標になるところもあると思うんですけども、例えば平日当たりどの程度とか、休日に向けてどの程度、またイベントをやる土日に関してどの程度というような、おおむねの目標は何かありますか。

○**飯田委員長** 小林観光課長。

○**小林観光課長** ただいまの小泉委員からの集客への見込みに関しての御質問でございますけれども、明確な目標というものは、数字上はございませんが、リニューアルオープンしました水戸市の植物公園の入場者数が今年度、緊急事態宣言等あるものの、既に3万人近くの来場者をお迎えしております。



こういった取組で相乗効果を図っていききたいということで、例年で申しますと、菊花展のほうでは20日間程度の期間を設けて、2万人から3万人程度の来場者がございますので、これを少しでも上回るように取り組んでいきたいと考えております。

○飯田委員長 小泉委員。

○小泉委員 2万人から3万人ってすごい数だなというふうに思いますし、リニューアルした植物公園のほうにもう行かれている方もいれば、この菊花展で来る人もいるし、新しく来る方もいらっしゃると思うので、そういった方々にも本当に楽しんでいただきたいなというふうに思います。

ただ、それに当たって、人数としては20日間で二、三万人さばくのにその人数でって、逆にすごいなと思うぐらいなんですけれども。ちょっと思いますのが、高校生、中学生に関して協力をいただけるということで私も大いにそれを歓迎したいと思います。その中で、例えば学生のボランティアとか、あとは今、大学生がどうしても学校に通えない、オンラインになってしまっているということがあるので、そういった方々に何か協力してもらえそうな座組ができないのかなと、今からじゃ難しいんだとは思うんですけれども。

実は、ちょっとお隣のひたちなか市の話になりますけれども、阿字ヶ浦で今度、10月15日、16日、17日とドライブインライブ&シアターという、あと現代アートもやってというようなイベントで、国全体で1億5,000万円の予算のうちの4,000万円をかけて民間の子たちと市で座組を組んで共同事業をやるんですけれども、そこではスタッフとして70人、そのうちの50人が大学生ということで、その大学生たちにとりまして、やっぱり今学校にも通えないし、そのほかのイベントとかサークルとかもできないんで、またそういったところに参加できること自体が大いにプラスになるという話をちょっと耳にしました。ですから、こういった市の企画であっても、やっぱり自前でスタッフを用意するとなると費用がかかったり人員も必要になったりするんですが、市民協働の観点にもなると思うんですけれども、学生とかをうまく座組に入れても面白いのかなというふうに思いますので、ちょっと一つ提案をさせていただきたいということでございます。

最後にもう一つは、本当により多くの方にお出かけをいただきたいと、これは市内外、どちらもでございますけれども、実は筑波大学のほうの社会人のセミナーがあったんで聞いてきたんですけれども、このコロナ禍になって、外出しなくなってしまった高齢者、週に3日以上外出しない方とする方で、認知症の発生割合がちょっと変わってきていると。外に出ない方のほうが認知症になりやすくなっている。あとは寿命、死因のほうにも第4位で運動不足というのが入ってきたりというのがあるようなので、そういった観点からも、健康長寿の観点からも安全にお出かけいただきたいということで、ぜひいろんな多くの方に御周知をお願いしていきたいと思いますし、僕もやっていきたいなと思います。

また、それと対になるんですけれども、前にも言いましたが、オンライン、例えばユーチューブでその様子を流すとか、そういったものも含めて、物理的に来れない方もいらっしゃるんで、そういった方々に対してはやっぱり今あるネットワークをうまく駆使して展開をしていただければ、より菊花展の魅力が広がるんじゃないかなというふうに思いますので、要望とさせていただきます。

○飯田委員長 小林観光課長。

○**小林観光課長** ただいま小泉委員からもボランティアの件で御意見を頂戴したかと思いますが、こちらの説明が不足しておりまして大変申し訳ございません。委員のおっしゃるとおり、学生の参画というのが大変重要かなと、若い世代の方にも入っていただくということが普及、啓発にもつながるといことで、現在、学生ボランティアのほうの募集をかけておりまして、10名程度はこのイベントに携わっていただきたいといことで考えております。説明が不足しており申し訳ございません。

○**飯田委員長** ほかにございませんか。

安藏委員。

○**安藏委員** 2点くらいちょっと質問させてもらいます。

第47回といことで、大変な歴史になってきたわけでございますけれども、この水戸市菊花愛好会連合会という組織、この内容、私もこれ初めて見たんですけれども、300品の展示があるといことですけれども、ちょっとこの連合会の組織の人数とか内容を教えていただければ。

○**飯田委員長** 小林観光課長。

○**小林観光課長** ただいまの安藏委員からの連合会についての御質問でございますが、現在、菊花連合会、市内に4つの組織がございます。渡里の菊友会を中心にほか3団体ございまして、現在会員数の減少という壁にぶつかっておりますが、令和3年度で全体で19名の会員さんがおります。15年前と比べますと、3分の1程度に減少してしまっていると。

○**飯田委員長** 安藏委員。

○**安藏委員** 19人ね。そうなんですよね、これずっとやってますけれども、いよいよちょっと手詰まりになっちゃって、本当に残念だなとは思っているんですけれども。小林課長の下でアジサイとか萩まつりとか、あとは植物公園の中ではさつき展も多分やっていたと思うんですけれども、やっぱり組織の維持というのが今どこも同じなんですけれども、若い人たちにつなげていくのが大変なことなのかなと私もしみじみ思っているところです。最盛期には恐らく100人以上の方がいたんでしょうけどね。それはそれでいいんですけれども。

そういうことで、小吹町の植物公園の駐車場でこの催しをやりますよというときに、私もしばらく行っていないですけれども、菊花展に対しては無料で、駐車場だから無料でしょうけれども、そこへ今度、そのついでにリニューアルされた植物公園に行くって言うけれども、入場料というのは、現在幾らになっていますか。

○**飯田委員長** 小林観光課長。

○**小林観光課長** ただいまの安藏委員からの、今回菊花展を開催します植物公園のほうの入園料につきましては、チラシにも添付してございますように、300円といことで入場料を頂く予定になっております。菊花展のほうは、委員の御意見のとおり無料で御覧いただけます。

○**飯田委員長** 安藏委員。

○**安藏委員** 特典として何かを配るといような話がありましたので、そういう面でもせっかくリニューアルされた場所で初めてやるといことですので、いろんな面でおもてなしはあると思うんですけれども、ぜひ継続するためにも、いろいろ検討しながら進めていって、48回、49回、50回になると思うんですけ

れども、生産者の方、愛好者の方の継続と、会場でできるように、ぜひ頑張ってもらいたいです。何かそれに対して一言ありましたら聞いて終わりにします。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 ただいまの安蔵委員からの菊花連合会の存続といいますか、継続に関しての御質問かと思えます。

私どもも委員の御意見のとおり、後継者不足が最大の課題かというふうを考えておまして、いかに皆さんに菊に親しんでいただくかということから見つけ直して、地道ではありますが若い世代を取り込んで、この菊の魅力を伝えていくことが大切なのかなと考えております。

今年度に関しましては、連合会のほうの会員さんが1名増加しまして、何とかこういうことをきっかけに、どんどん会員の勧誘も続けてやっていきたいなというふうを考えておりますので、よろしくをお願いします。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

内藤委員。

○内藤委員 これ第47回ということで、資料に書いてありますけれども、始まったときというのは末広町の谷中だよね。恐らくね。そうすると、47回というと私がもう78歳だから、随分、私、子どもの頃から見ているような気がするんだけど、さんやさんでは。実際には47回にしかなくなってないわけ。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 ただいまの内藤委員からの御質問でございますが、菊花展、菊まつりとしましては、始まりが委員の御意見のとおり桂岸寺の保和苑でございますが、これが昭和50年から開始しておまして、平成15年まで保和苑のほうで開催しております。平成16年からは場所を県の三の丸庁舎前広場のほうに移しまして、これまでやってきた経緯がございます。

○飯田委員長 内藤委員。

○内藤委員 というのは、その始まったころには、恐らくさんやさんにだけ菊を持ってきた、渡里というのかね、今でいえば、向こうの方がほとんどでなかったかなと思うんです。さんやさんにしても、こっちの旧県庁に場所が移っても。結局そういう方たち、渡里、私ら渡里台地とか渡里町内というんですけれども、あの辺の方がほとんどの人でなかったかなと思うんです。その渡里のほうの方では今何人くらいいるの。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 ただいまの内藤委員からの連合会の渡里菊友会のほうの会員さんの状況についてでございますが、今年度、渡里菊友会が14人というふうになっておまして、大部分は渡里菊友会の皆さんが会員として御活動なされていると思えます。

○飯田委員長 内藤委員。

○内藤委員 それ聞くと、渡里の人が多いということになると思うんですけれども、私も何人か出展している人を知っていますけれども、結構みんな年なんだよね。それで作ったものを展示場に運ぶ、軽トラとか、2トンの車とかで運んでいるのも私も何回も見かけてますけれども、その運んでいる人がもう結構、年なんですよ。もう70歳過ぎ、80歳過ぎだから、やっつけて。若い人が入ってこないということで、私も渡里のほうでそういう方をたくさん知っているんで、行ったときには後継者、誰か育ててよと、子どもさんな

り、近所の人でそういうのが好きな方がいたら教えて、そして人を増やしてちょうだいよということは、一人一人、何人か声をかけているんですけれども、今年1人入ったということでこれは良かったなと思うんですけど。本当だったら、今年5人増えましたとか、来年7人になりましたとかという言葉を知りたいんですけども、なかなかそうはならないのかなと思うんです。それで今言うように、今度は小吹でやるということで、恐らく今安藏委員が言ったように、増えると思う、来る人がね。ですから、作った方は見てくれる人が多ければ嬉しいわけだから、喜ぶわけですから、そういうのが増えた場合には、出展している方に、今年はこのなお客さんが増えたんだよということを皆さんに知らせて、そして喜ばして、そして会員を増やしていただけるようにしてください。

もう一つだけ聞きたいことは、出展した方にはお礼として何かあげてるんだっけか。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 ただいまの内藤委員からの御質問で、出展者の方への謝礼でございますが、今年度も継続してお支払いをする予定でございます。

○飯田委員長 内藤委員。

○内藤委員 謝礼が出ているのね。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 説明が不足して大変申し訳ございません。出品してもらって審査会をさせていただいて、入賞した作品に対しての謝礼ということで毎年継続しております。

○飯田委員長 内藤委員。

○内藤委員 そうすると、そこに入賞した人だけがもらうっていうこと。例えば19人と言ったよね、さっきね。その謝礼をもらう方は19人の中の何人くらいなの。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 ただいまの内藤委員からの御質問でございますが、審査会のほうに今年度何点出品するかは未定でございますが、300点展示する中でどれぐらい審査をするかというのを……。

[発言する者あり]

○飯田委員長 内藤委員。

○内藤委員 そうすると出展した人全員がもらえるというわけではないの。もらえない方も出てくるわけ。何らかの形で多少は出してあげなきゃかわいそうなんじゃないの。

[発言する者あり]

○内藤委員 じゃ、分かったけれども、できれば何らかの形で、一番最後のほうでもいいけれども、そういう賞でも何でもつけて多少でもあげればいいかなと、個人的には思うんで質問したわけですけども。とにかく、これから長く続けてほしいんで、そういう出展者がいなくなっちゃったなんていうんでは困っちゃうから、今年は1人かもしれないけど、来年は2人も3人も増えていただけるように地元の人らにお願いして、誘って、やる人を育ててくれというふうなことを、とにかく地元の人しか分からないからね、渡里なら渡里のほうの方しか分からないわけだから、例えば南町の人で渡里の友達がいるからって、菊花展というのがあるんであんたもやんねえかなんて言ったって、とてもやるもんじゃない。やっぱり農家の人じゃなきゃ

手出さないとと思うんだよね。だから、そういうのを誘っていただいて、1人でも多く、今年は1人かもしれないけれども、来年は2人か3人増えるように努力をしていただきたいと思います。それだけです。

○飯田委員長 五十嵐委員。

○五十嵐委員 今回の主な変更点、見どころの中に、今年新たな取組として水戸一中の生徒が育てた菊の展示がありますけれども、その辺についてちょっともう少し詳しく教えていただけるようお願いします。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 ただいまの五十嵐委員からの水戸一中の生徒さんによる菊の展示についての御質問でございますが、水戸一中では1学年生が全員、菊を栽培、育てるという教育方針でやっております、そこで厳選した花をこちらの菊花展のほうで展示させていただいて、そういったことも広くPRをさせてもらうという内容でございます。

○飯田委員長 五十嵐委員。

○五十嵐委員 すばらしいことだと思いますけれども、今回で47回目ですけれども、こういう中学生がやるのって初めてなんですか。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 御質問にお答えします。

今回新たに企画したことでございます。

○飯田委員長 五十嵐委員。

○五十嵐委員 イベントというのはやはりマンネリ化がまずいので、こういう新たな、また特に市民参加型とか、すばらしいことだと思います。ちょっと1ページのほうに戻りますと、広報のところで、植物公園近隣の幼稚園や学校等を中心にチラシを配布とあるんですけれども、これはそっちが多めで、各市内の小中学校の全員にはいかないんでしょうか、いくんでしょうか。ちょっとその点確認です。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 ただいまの広報の部分についての御質問でございますが、学校のほうに関しましては、近隣の幼稚園、保育園、それから水戸啓明高校さん、水戸第一中学校さんなどが中心になりますが、今回、初めて福祉関連施設のほうに、お散歩に出かけていただく機会にしてもらうことなどを想定しまして、550施設のほうにメールで御案内するということを考えております。

○飯田委員長 五十嵐委員。

○五十嵐委員 この菊花展だけじゃなくて、水戸の梅まつりから始まっているいろいろありますけれども、そういうバランスもあるので、小中学校のPRというのは難しいかと思うんですけれども、今回特に小中学生にとってみれば、高校生はお兄さん、お姉さんになりますし、中学生でいえば、同じ中学生が育てた菊があって、やはりせっかくこういういい企画もありますし、幅広く水戸市でやる行事ですから、ホームページにも出ているんでしょうけれども、各学校に対してもある程度、やはり私たちも、行かないともうそれきりですけれども、行ったときってこういうのを見ると感動しますよね。いや、すごいないつも思いますので、そういう感動を子どもたちに味わってもらうためにも、その辺しっかりと、せっかくやっているの、ぜひ積極的にPRしていただきたい。

最後になりますけれども、ちょっと聞き漏らしたのかもしれないですけれども、今回、駐車場でやりますけれども、駐車台数とかその辺のことは大丈夫なんでしょうか。ちょっとそれだけ最後に聞いて終わります。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 ただいまの五十嵐委員からの御質問でございますけれども、1点目の学校へのPRにしましては、広く周知できるように検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

2点目の駐車場の部分にしましては、植物公園自体の駐車場が350台、大型バスで10台分ございます。このうち、今回の菊花展で20台分をお借りしてやるということで、それほど影響が大きい範囲でやらせていただく予定です。

○飯田委員長 五十嵐委員。

○五十嵐委員 分かりました。じゃ、駐車場のほうは問題ないと認識しましたけれども、駐車場内で行う行事であって、すぐ周りが駐車場で、車と人と、とにかく事故とかが起こらないように十分気をつけていただきたいと要望しておきます。

以上です。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

渡辺委員。

○渡辺委員 皆さん意見ありましたが、観光課をはじめ、菊花展に関わる方の御努力、子どもたちに花をめでる気持ち、心を植え付けるというようなことで、その御努力にまず敬意を表したいと思えます。本当に御苦労さまです。

今、様々な話が出ましたけれども、一番の問題点は、高齢化が進んで、これに携わる人たちが少なくなってしまうということが1点あったかなと思うんです。これは、この団体だけではなくて、今、市内における様々な市民団体の市民力、地域力、そういうものが減退していますね。例えば、子ども会でいえば加入率が16%と、また町内会の加入率がもうすぐ50%になってしまうんです。世帯数で9万ぐらいあるんですけれども、今、加入率が5割だなんていったら、今まで市報を9万部刷っていたって、半分なんだから、4万5,000部しか必要性がないですよ。そういうアンバランスな部分がたくさん見えてきているのかなというふうに私は見ております。

そういう中で、一言ちょっと皆さんにお伝えしたいのは、花をめでるという部分で梅まつりがあって、桜まつりがあって、萩まつりがあって、あじさいまつりもありますよね。そして、また菊花展もあります。これは何のためにやっているのか。行政の使命としては、先ほど敬意を表した花をめでるような、花を愛するような、そういう心豊かな子どもたちに成長してもらいたいということで、その背景があって、これだけ花の取り持つ事業があるということをもう一度再認識してもらいたいんです。人を集めるだけが事業の目的ではなくて、それだけじゃないんですね。本来は、次の世代の子どもたちへの花を通して自然を大切にする、そういう心を育むために、こういう事業が位置づけされているというふうに私は思っております。同じ事業を絶えず同じようにやっていくということが使命ではなくて、その裏にある部分をしっかりと認識して、そして、概念を変えていくというようなことも、その時代によって必要になってくるのかなというふうに私は考えております。これは花を通した大切な事業なものですから、ぜひ、そういうのも意識しながら取り組ん

でいただきたいということを要望として伝えておきます。

それと、ちょっと質問なのですが、これ駐車場でやりますよね。中に入るのには300円かかるけれども、こっちは無料だと。これ、やっぱり思うんだけど、リニューアルしたこの植物公園、今度担当が変わりましたよね、公園緑地課に。こっちは見るけれども、こっちは見ないというのは、同じエリアにあるのに非常にもったいないなというふうに思っているんですよ。

例えば、コラボするような方法はなかったのかなと思うんです。コラボというのは、中に入って温室の近くのレストランの辺りで、菊花展をやったほうが、来た人がみんな見るわけだよね。例えば、菊花展のためだけに来た人が菊花展を見て、すぐ帰っちゃうというようなこともあるのかなと、また、それを見るからいいんだという考え方もあるんですけど、やはり、中に入ってもらって、子どもたちが見たとしても、大人が見たとしても、リニューアルしたものをしっかり十分に堪能してもらって、そういう仕掛けが私は欲しかったなと思うんですけど、その辺のところはまずどういうふうに考えていたの。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林観光課長 ただいまの渡辺委員からの相乗効果の部分についての御質問かと存じますが、私ども執行部といたしましても、可能であれば植物公園の中でコラボ企画とかを当初検討した経緯がございます。今年度は、残念ながらそれが実現できなかったんですけども、植物公園のほうで年間の行事がある程度固まっている関係もございまして、なかなかそこうまい形でコラボレーションすることができなかったの、次年度以降におきましては、もしこの植物公園で開催する方向で進める場合につきましては、可能な限り植物公園の中で楽しんでいただくというふうな催しも検討してまいりたいと考えております。

○飯田委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 ありがとうございます。

入園料の300円が高いか安いかは、これ人によって、いや高いという人もいるでしょうし、300円なら中に入って菊花展も一緒にあわせて見たほうがいいと思う人もいるでしょう。ですから、300円払って菊花展を見た人には、さっき言ったような小鉢がもらえとか、中に行った人には何かもらえとか、そういう何か付加価値をつけるような方法で、できれば中でやってもらったほうが、むしろ全体を見てもらうには、私は非常に成果、効果が上がるのではないのかなというふうに思っております。これは可能であればの話ですから、ぜひ担当の公園緑地課のほうとよく話をさせていただきたいなというふうに思っております。

いずれにしても、そういう意味では諸団体で非常に高齢化が進んで、次のバトンタッチが非常に難しい状況になっています。ですから、それをきちっと認識しながら、今までの事業の概念を変えていくときが来ているのかなと、それに輪をかけて促進しているのが、このコロナ後における人の考え方が変わってくるのではないかということなんで、その辺のところもきっちり調査しながら取り組んでいただきたいということをお願いしておきます。

以上です。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

ないようですので、次に、その他に入ります。

委員より何かございましたら発言を願います。

渡辺委員。

○**渡辺委員** 中心市街地の活性化に関する話で、さきの本会議で空中デッキの話がありましたよね。この空中デッキの話が出て、私もいろいろ質問したいところなんですけれども、担当に近い特別委員会の委員長をしているというところで遠慮しているの、この常任委員会で聞こうと思っていたんですけれども、空中デッキを一企業のためにやっているという確証もないのに、それを本会議でしゃべってしまうと、これは動議だなと思うぐらい、実はちょっと私は感じたんです。固有名詞を出して、これはまずい話ですよ。確たるものがないのに固有名詞を出して、そのためにやっているというようなことになってしまうと、これ一般の聞いた人には、人の口に戸は立てられないので、その話がどんどん広がっていく可能性があるんですよ。そう言っている人もいますよ。やはり、この辺のところを私は非常に心配しております。今のこの流れ、水戸市の中心市街地の再生という大きな目的が、エリアの一つの部分だけで全て狂ってくる可能性もあります。私はそれを非常に心配しているということを前提として、この空中デッキ周辺の商店街には話をしているんですか。

○**飯田委員長** 長谷川商工課長。

○**長谷川産業経済部参事兼商工課長** 空中デッキの整備ということで、私が直接の担当ではないので、はっきり今申し上げられない部分もありますけれども、その周辺の商店街のほうには話がされているものというふうに認識しております。

○**飯田委員長** 渡辺委員。

○**渡辺委員** 幾らか近隣の商店街の方から期待の声がちょっと入ったものですから、さらにこの水戸市として、担当しているのはこれ建設部なのかな、そっちが担当しているんですよ。ですから、その辺のところとよく連携しながら、ただ単に傍観者として、ああ、できるんだということじゃなくて、その空中デッキをどう活用するか、出来上がってから考えようじゃなくて、今のうちから自分たちの商店街の活力とか活性化に結びつくような発想を持ってもらいたいです。できてからみんなで考えようじゃ駄目ですよ。あれ、空中デッキは、ただ単に右から左に行くためのものじゃないんですよ。あれ自体が一つのパフォーマンスなんです。あそこで若い人たちが、例えば路上ライブやったりとか、いろんなことができる。そういうことをぜひ商店街の方々に話していただきたいんです。これは、自分たちのためなんだという意識を持ってもらわないと、対岸の火事を見ているような、何かできそうだなと思っていることでは駄目だと。当事者意識を持ってそういうものをしっかりと受け止めてもらいたいということを実はお願いしたいんです。

幾らか話をしている方はいるので、ただ単に右から左に行くための、北と南の利便性だけでやっているのではないということもしっかり話してもらいたいですね。それでなくても、今、その下に歩道橋がありますよね。ちょうどM-SPOのところ。老朽化してボロボロで誰も使っていない。あれは地元の方から、邪魔だ、誰も通ってないんで早くどかしてくれと。あそこを取り外すための、1つの利便性を図るということで、あっちを取り壊すんでこっちで一つ必要なんだという背景もあるんだということも、しっかり行政のほうでは感じてもらって話してもらわないと。下をなくすためのいわゆる代替でもあるというようなことも、私は地元の人たちから聞いておりますので、ぜひそれをきちっと周りに話していただきたいというふうに思います。老朽化して、さびだらけで汚いし、景観上も非常によくない、そういう歩道橋になっていますか



ら、下の歩道橋は。その辺のところを踏まえて話をしてください。

それと、あその空中デッキなんですけれども、今度それをどう活用するかということでは、例えば周辺の商店街、京成百貨店さん等にもしっかりと、商工課としてこれをどう生かしていくかというようなことを含めてぜひ話し合い、協議の場を設けていただければということをお願いしておきます。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

この際、御報告を申し上げます。

今年度の彦根市のひこねの城まつりにつきましては、開催内容の変更に伴い、姉妹城・親善都市議員交流会の開催を見合わせる旨、通知がありましたので、御承知お祈いします。

それでは、以上をもちまして、本日の産業消防委員会を散会いたします。

御苦労さまでした。

午前11時 3分 散会